

聞き逃してきた現代音楽作曲家 一度は聴いておきたい代表作



1. ヤニス・クセナキス(Xenakis) (1922-2001)

ルーマニア生まれのギリシャ系フランス人の現代音楽作曲家。建築家であり数学家。第2次世界大戦中に、銃弾を受け左目失明耳も損傷。数学の論理を用い、コンピュータを使った確率論的手法で多くの斬新な作品を生み出した。(Wikipediaより要約)

2. アルベルト・ヒナステラ (Ginastera) (1916-1984)

アルゼンチンの作曲家。20世紀南米の作曲家中最大かつ独創的の一人。アメリカの作曲家コープランドが称賛。初期にはアルゼンチン音楽の影響下に、オスティナート語法(何度も同じパターンを繰り返す。)をふんだんに用いた明快な作風で知られる。民族的な要素、旋律的な要素がストレートに表出、血湧き出る肉踊る場面、腹にずっしりと響いてくる大胆な打楽器の用法など若者の野心が感じられる。2曲のバレエ曲を紹介。



3. アルフレート・シュニトケ(Schnittke) (1934-1998)

ソビエト連邦のドイツ・ユダヤ系作曲家。初期、主に映画音楽の作曲により糊口をしのぐ。たびたび医師に死を宣告されながらも、奇跡的に回復して、作曲活動を続けた。しかしその後も脳血管発作によりまぼ全身が麻痺して、ほとんど作曲ができなくなった。その後この病気で健康がさらに衰え後期には、その作品は、外面的な多様式部分の多くを切り捨て、より内面的で打ち沈んだ調子に閉じこもるようになる。

「私の生涯の目標は、芸術音楽と軽音楽の統一なのです」(出典 Wikipedia)



我孫子オーディオファンクラブ (AAFC) 分科会へのご案内(会員による自主講座)

日時/2022年12月11日(日) 13:30~16:00

場所/久寺家近隣センター 多目的ホール 参加自由・**入場無料**

発表者/山本一成

https://www.city.abiko.chiba.jp/event/shisetsu/kinrin_shimin/kujike.html

問い合わせ/ aafc.audio@gmail.com AAFC 脇田

ご注意 ※コロナの状況によっては中止になる可能性も有ります。※感染対策の為、自宅での検温をお済ませください。(37℃以上の方はご遠慮ください) ※参加される方はスリッパをご持参ください。※マスクを必ず着用してください。※感染対策の為、常時換気を行っていますので服装にはご留意ください。